

## 幼少期こそ素読の最適期

儒教は、孔子を祖とする日常の実践道徳の教えです。

その孔子の言行録『論語』が日本に伝えられたのは三世紀の終わり頃。

以来その教えは、皇室においては「孝」と「仁」を要に帝王学の一つとし重んじられ、また庶民の間にも広く深く浸透し、日本人の倫理観・規範意識に大きな影響を与えて来ました。

「親子論語素読教室」は、この『論語』を親子で楽しく素読します。

素読は、覚える能力が際立って高い幼少期に、

大切な言葉を繰り返し声を出して読むことによって自然に覚えてしまう学習方法です。

その際、言葉の内容や意味は分からなくてかまいません。

内容・意味は、後に理解力や思考力が育ってから学ばばいいのです。

理解力や思考力が育ってくる時期になると、記憶力はそれに反比例して弱まってきます。

ですから、一番覚える能力が高い幼少期は、昔から素読の最適期とされてきました。

朗読・音読は、頭脳を中心として、口・舌・鼻・目・耳を使い、

呼吸・発声・視覚・聴覚を総動員して言葉を身につける最も優れた言語習得方法です。

当然ながら優れた国語力の素地も養われます。

今、その素読の方法が改めて見直されています。

東洋の古典を重んじた安岡教学を受け継ぐ「公益財団法人 郷学研修所・安岡正篤記念館」では、毎月「親子論語素読教室」を開いています。

生涯にわたって心の支えとなる言葉が、素読によって幼いころから身につくことは、

その子の一生を通してかけがえのない宝物になり、その子への何物にも代えがたい贈り物です。

世界の古典であり、人のあり方についての教えの宝庫『論語』を、親子で楽しく学びましょう。